週末型「自然保育」が育む生涯を見通した成長発達

＝2015～2020年にわたる継続した自然保育の実践を通して＝

上原　貴夫

はじめに

自然保育が全国的に広がりを見せた展開を示している。長野県では全国に先駆けて2015年から県の制度に位置付けた「自然保育認定制度」を発足している。筆者は準備段階から関わり、「自然保育認定制度検討委員会」発足後は委員長を務めて、その制度設計を進めてきた。その後、制度整備を進める他の県など自治体が続いている。

2015年、長野県の制度発足時点から週末型の自然保育として実施してきた活動について報告する。これまで「週末型」として土曜日や日曜日、あるいは祝日などを活用して月に１～２回、年間を通して自然保育を実施してきている。名称を「ながの県森と自然の保育園」という。これは地域住民、大学生など若者らによるボランティアが運営している。活動全体は多岐にわたるが、ここでは主として保育活動を中心にして示していく。

保育園は参加者も定着し安定した活動として続けられている。

１．経　過

2015年に長野県において自然保育認定制度が発足した。同じ年に「森と自然の保育園」を発足した。これは、年間活動として行われている。実施は土曜日や日曜日、あるいは祝日を活用して行うものである。

そのために「週末型」として位置付けている。しかし、参加者や進め方などは平日に行われているものと同様に「年間計画」や「１日の活動」、「保育・教育課程」と名付けた系統だった内容を設けている。

2015年から６年が経過しようとしている。活動も安定的に運営されている。

2．活動内容

（1）活動全体の内容

活動は就学前の子ども達を対象とした保育活動と、自然保育に関する研修や子育て相談など多岐にわたる。

表－1　活動領域と参加者活動内容一覧

活　動	対　象	内　容
①教育・保育	ゼロ歳児、未満児から、就学前の子ども達 小学校低学年の子ども達	・子ども達の自然な成長。 ・子どもの達の自発的な活動を伸ばす。
②研修	現職の保育士、幼稚園教諭、小・中学校等の教職員 自然の保育に関心を持つ者	子育て、子ども支援研修。野外活動、自然体験の指導法、自然をベースとした教育・保育の方法、子どもとの向き合い方など。自然体験についての研修。自然の中での活動に必要な知識や技術の習得
③体験	「自然の保育園」に入園を希望する方、自然保育に関心を持つ者など。保育園や幼稚園などの機関や団体など。	豊かなフィールドを活用した自然観察や野外体験など。 保護者、子ども達、保育士、幼稚園教諭、自然体験活動、野外教育などに関心を持つ者。県内、県外、首都圏などからの参加も可能 ＊体験は幼稚園や保育園の団体も可能な範囲で対応していく。
④子育て支援および子どもについての相談	保護者、保育士、幼稚園教諭など	子育てや子ども達の幼稚園保育園での心配事、学校適応に関することについて 子育ての悩みや子どもとの向き合い方など
⑤その他、自然保育および野外活動に関すること	保護者および希望者	自然保育を中心とした幼稚園や保育園の紹介、 家庭できる野外活動についてなど

３．保育活動の概要

（１）名称　森と自然の保育園

（２）主催・共催　主催は「森と自然の保育園」、共催は「長野県望月少年自然の家」

（３）活動のスタイル　週末型

（４）スタッフおよびスタッフが所有する専門資格

スタッフについて所有する専門資格とともに紹介する。スタッフは地域住民や大学など学生ボランティアによって構成されている。学生が所属する大学は国公立、私立など多彩な学校から参加している。また学部や学科は保育士養成や教員養成系に限らず理系も含みながら幅広い領域にわたる。

スタッフが所有する関連した主な専門資格は以下になる。

保育士　　幼稚園教諭　　社会福祉士　　学校心理士　　中学校教諭

キャンプインストラクター、キャンプディレクター（日本キャンプ協会）

（５）フィールド

長野県望月少年自然の家（長野県佐久市望月）一帯をフィールドとしている。

○豊かな自然

フィールドは蓼科山の麓、「長野県望月少年自然の家」を中心として広がる自然です。標高およそ1250メートルの高原である。四季の変化は明瞭で、あざやか。蓼科山から丘陵状に広がる大地に抱かれ、シラカバやナラ、ケヤキ、ミズキなどの広葉樹、カラマツ、スギなどの針葉樹の森、ツツジ、フウロソウなどの花々が咲く緑豊かなフィールドである。

シダ類、クマザサなどの下層植生も豊かである。

コガラなど動物や野鳥など生きものも多彩である。

ニホンジカ、ニホンザル、リス、キツネ、タヌキなどが生息する。クマも生息する。鳥や昆虫は四季に応じて豊かである。鳥類は、シジュウカラ、ハギマシコ、コガラ、池にはアオサギやコサギが飛来する。

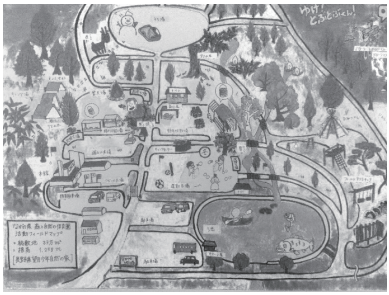
昆虫は、アサギマダラ、タテハチョウ、クジャクチョウなどが舞う。クワガタなどのカブトムシもみることができる。

敷地内には湧水が何箇所かあり、水の誕生から川としての成り立ちをみることができる。湿地もあり、セリなど特有の植物を見ることができる。

大きな池があり、コイなどが泳ぎ、カエルなど水辺の生物も豊かである。春にはオタマジャクシが泳ぐ。

○多彩な設備

設備として。ソロキャンプも可能なキャンプサイト、野外炊飯場、かまど、営火場、アスレチック、ソリ場、グランドなどが設けられている。



図－１　フィールドの絵地図（スタッフ作製）

（６）活動計画

１）カリキュラム

１）年間の保育・教育課程、年間計画

年間において系統だった見通しと計画を持って活動を展開している。年間の見通しとして系統だったものを「保育・教育課程」と名称して運用している。年間計画とともに示す。

○保育・教育課程

改訂された保育所保育指針や幼稚園教育要領などを踏まえながら保育・教育課程と名付けて設定している。教育領域についての視点も盛り込んでいる。

令和２年度（2020年度）

保育・教育課程

「体験」が育てる・try out（試行）による教育・保育

ながの県森と自然の保育園保育・教育目標

1. 自らやり遂げる「気力」を備えた子を育てる。
2. 成長を支える「体力」を備えた子を育てる。
3. 「知力」を育む。

令和２（2020）年度の主目標

1. 自ら「トライする」子、「体験」する子、「試行」する子を育てる。
2. 「不思議」さを感じることが出来る子を育てる。
3. 仲間と楽しむことが出来る子を育てる。
4. 「探求」する力を育てる。

不思議に気付き、探検し、発見しよう。　友だちと挑戦しよう。　「知」の冒険の楽しみを体験しよう。

	未満児	年少・年中・年長児	幼保小接続 小学校入・低学年	小学校高学年・以降
子どもの成長	・自分から動くことが出来るようになる。 ・身近なものに関心を示すことが出来る。 ・手や身体全体で楽しむことが出来る。	・仲間と楽しむことが出来る。 ・探求する気持ちが持続できる。 ・知ること・出来ることの楽しみを感じる。	・規則やルールに慣れる。 ・学習する楽しみを感じる。 ・仲間と活動できる。	・自ら目標を見つけ、追求できる。 ・集団生活が出来る。 ・探求活動が出来る。 ・自立する気持ちが持てる。
「めあて」（目指すねらい）	・自ら、自由に活動する楽しみを知る。 ・危険や心配を含め自分の気持ちをあらわすことが出来る。 ・周りからの働きかけに反応できる。	・食事・起床・排泄など基本的生活習慣が出来る。 ・仲間と活動できる。 ・言葉などでコミュニケーションや表現ができる。	・社会生活の始まり。 ・自分の目標を感じる。 ・仲間と協力できる。 ・自分以外の人の気持ちなどが理解できる。	・自らの目標を自覚できる。 ・仲間を理解できる。 ・協力できる。 ・学習習慣が出来る。
具体	・嬉しい、楽しい、嫌だ、心配そうなどの気持ちが表現できる。 ・食習慣が出来る。 ・起床、食事、入浴など生活習慣を築き始める。	・約束や生活の中の決まりなどを守ることが出来る。 ・友だちや大人と約束などと一緒のルールを持つことができる。	・時間やルールなど社会規範を意識できる。 ・学校、道路、乗り物など社会の公共物を活用できる。 ・学習に対する楽しみを感じることが出来る。	・主体的に社会生活・集団生活が出来る。 ・発見・探求から解決に到る過程を形成できる。 ・自分や自分以外の人の個性・特性を理解できる。

表－２　令和２年度（2020年度）保育・教育課程

○年間計画

１年間を３段階に分けて系統的に活動する。最初の段階である「適応期」、自己の興味や関心を踏まえながら主体的、自主的に活動する「展開期」、年齢進行や就学など来るべき段階に向けた準備を進めていく「進展期」による系統的な活動を行う。

表－３　年間活動のステップとねらい

時　期	ステップ	ねらい
４，５，６，７月	適応期	環境や活動に慣れる。 次の展開期につなげる。
８，９、10，11 月	展開期	主体的体験を得る。適応期で育んだ環境についての知識や経験、友達関係などを踏まえて、自分の考えや気持ちで主体的に活動します。
12、１，２，３月	進展期	４月に来る入学や進級、年齢進行などに備えた活動を行います。幼・保－小の接続に関連した活動も含みます。

◎月ごとの活動は別紙「開催日程」資料をご覧下さい。
◎4月の最初の活動日に「入園式」を行います。
◎翌年3月の最終活動日に「修了式」を行います。

○年間保育・教育計画

１年間の活動を月別に示したもの。保育所保育指針や幼稚園教育要領などを踏まえて構成している。

表－４　令和２年度（2020年度）年間保育・教育計画

		◎園の目標・保育・教育課程と一致。											
発達の節		Ⅰ期（適応期）				Ⅱ期（展開期）				Ⅲ期（進展期）			
月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
ねらい		【順応期】 ○◎適応を主とする段階→「自然」に適応、仲間に適応、自分に向き合い、気づく。				【展開期】 ○◎適応した上で自分を発揮する。自分で活動→（トライ・アウトtry out期）				【進展期】 ○本年の発達を確かなものにし、次のステップを準備する。			
活動の視点＝「自然」、「保護者・保育士」、「子ども達自身」の「ありのまま・自然を発揮」。それらの「自然」を基盤として「体験」を通して成長していく。「養護」と「教育」	健　康	○安定して過ごすことが出来る。○手洗い、清潔などを感じる。○楽しく、おいしく、好き嫌い無く食べる。○昼寝や休憩がとれる。				○危ないことが分かる。○うがい、顔洗いなどが分かる。○年長児は自分で自分の身体に気を付ける。				○自分で出来るようになったことを感じる。確かに身につける。○年長児は健康づくりを意識する。			
	人間関係	○自分のやりたいことが出来る。○一緒にいることが出来る。○安心してすごせる。○年長者は仲間とやりたいことが出来る。				○一緒に楽しむことが出来る。○誘われたことに加わることが出来る。○年長児は人を仲間に誘うことが出来る。				○仲間と楽しむ。○仲間に入る、仲間を作ろうとする。○年長児は自分の役割などが分かる。○協力できる。			
	環　境	○着たり、脱いだり出来る。○年長者は片づけが出来る。○年長児は大勢とすごすことが出来る。				○身の回りのことに気がつく。○身の回りのことに関心を持つ。○年長児は身の回りのことを整えようとする。				○季節の変化や天候、気温などに合せた服装や活動に気がつく。年長児はそれらが出来る。○年長児は整理・整頓が出来る。			
	言　葉	○名前を呼ばれて顔を向けることが出来る。次第に返事が出来るようになる。○人からの話しかけを喜ぶ。○自分から話そうとする。				○返事・返答が出来る。○自分が思うこと、感じたことを言える。○人の言うことに注意を向ける。○年長児は会話を楽しむ。				○次第に多くの言葉を使うことができる。○順序よく話すことが出来る。○年長児は人の気持ちが分かる。			
	表　現	○顔、全身など身体で表現できる。○音や音楽などに合わせた動きが出来る。○自分で気持ちなどを表すことが出来る。				○感じたこと、思ったことが表現できる。○他人の表現を感じる。○他人の表現を取り込むことが出来る。○自分に合った表現を試み				○自分に合った表現が出来る。○自分や他人の表現を楽しむことが出来る。理解できる。			
	自　然	○自分を素直に表現する。（保育者も） ○フィールドとしての自然を認識する。○いろいろなことに気がつく。　○自然・仲間の「約束・関係」に気がつく。				○フィールド・活動に合わせて服装、持ち物、計画などの準備が出来る。				○自分たちの活動が出来る。○仲間を誘うことが出来る。○安全について意識する。○楽しく活動できる。			
	体　験	○自分の気持ちに合わせて動こうとする。 ○「試みようとする」ことができる				○自分の気持ちや考えを行動に表すことができる。				○「新たな試み」を発見し、実行できる。			
活動形成＝各々が自然を表現・相互の交流・それらを基盤とした体験	環境構成・保育者のかかわり・子ども相互のかかわり	○活動フィールドの点検・緊急時対応確認 ○活動時の「約束」をする。 ○子ども達のフィールド理解を進める。 ○仲間に順応する、仲間づくりを支える。 ○大人など異年齢のさまざまな仲間がいることを感じる。				○活動フィールドの点検・緊急事対応確認 ○子ども達のフィールド活用を展開する。 ○仲間と一緒にする。 ○異年齢間の関係づくり。				○活動フィールドの点検・緊急事対応確認 ○子ども達のフィールドに対する工夫を支援する。 ○仲間と協力する。 ○異年齢の役割関係を認識する。			

○開催日程

１年間の活動について実施の期日とテーマを示している。

表－５　2020年度ながの県森と自然の保育園 開催日程

実　施　日	活　　動
4月　18日(土)	はじまりの会 これから始まる保育と自然活動にワクワク 森ウォーク：春の森の楽しみ。
5月　10日(日)	森の発見：森の不思議を見つける・探検する
6月　7日(日)	「知の冒険」
6月　27日(土) 28日(日)	初夏のお泊まり会（宿泊：30名）※ 挑戦：森で眠る(ソロキャンプ等)「森の夜」夜の森の生態
7月　19日(日)	夏の森を体験する 緑が深い森を仲間と協力して歩く
8月　23日(日)	森の中で全身を使って遊ぶ
9月　5日(土)	秋を迎える森 森は早くも秋になる
10月　10日(土)	秋の自然の恵み
10月　24日(土)	実りの秋。森の収穫体験。冬の準備に入る森
11月　14日(土)	食を知る　楽しく焼きいも会
12月　5日(土)	冬の準備：森の生き物、昆虫、動物、鳥など
12月　20日(日)	1年を振り返る：年末・年始の行事を体験する 成長を実感する
1月　16日(土)	地域とふれあう行事・どんど焼き 自分で考える行動
2月　21日(日)	仲間と行う活動 入学・進級を迎えて
3月　20日(土)	1年を振り返る 修了式

２）1日の活動

集合はおよそ９時半である。活動開始は10時であり、終了は２時を予定している。子ども達が朝の会の進行をしたり、その日の活動を提案したりしながら主体的に行っていく。森ウオークやクラフト、自然の中での学習、仲間遊びなどを行うとともに年間の中では年中行事や地域で特色ある行事などをとりいれている。これらを集団活動や個別活動などに織り込んで実施している。

保護者の方は子ども達と別々に行動して学習会を行ったり、子育て相談を行ったりしている。もちろん一緒に活動することもとりいれている。保護者との共通の活動は本園の特色でもあり、大切にしている。

各回に配布される配布物は以下である。

参加者へ配布　　・「(活動の)しおり」　・「望月新聞」　・当日の活動資料
スタッフへ配布　　・スタッフ資料。
行動の細案であり、指導案としての役割を持っている。

表－6　1日の活動

時　間	事　項	内　容
9:00	参加者集合	必要に応じて順次問診など
10:00	開　始	はじめの会　出欠確認 ・子どもが呼びかけをして出席を確かめます。 スタッフと遊ぼう。・ゲーム、手遊び、読み聞かせなど 「今日、何しよう」・子どもたちが提案します 服装・装備チェック：「モッチー登場」（モッチーの名前の人形）モッチーと一緒に長袖、長ズボン、手袋などその日の活動にあっているか、子どもが呼びかけてチェック。トイレ、装備などの用意。
10:30	活　動	森ウオーク、ソリ滑り、野外炊飯、森の探検、クラフト、年中行事など季節や時期に応じた活動を行います。
12:00	昼　食	お父さん、お母さんと一緒でも、友達同士でも、スタッフと一緒でも、一人で頑張って食べるということでも自分の気持ちや考えに合わせて食事をとります。楽しい時間です。
13:00	午後の自由活動	異年齢や仲間などで思い思いに活動。スタッフも参加。
13:30	おわりの会	終わりの会　本読み：今日の活動にあった本を読みます。 ＊小学生グループは今日のまとめを書いて行う。 ＊幼児グループは自由絵や遊び絵などでまとめる。 文字を書くことができる子どもは書いてまとめる。 振り返りの発表 ・子ども達、お父さん、お母さん、スタッフも発表。 ＊連絡事項　次回の予定など
14:00	解　散	
	スタッフ	ミーティング。振り返りと次回の準備

4．保育・教育内容のねらい

(1)保育・教育活動の理念

1)体験に基づく保育・教育

体験を重視している。特に実際体験に重きを置いている。そのため主体的で自主的な体験の実現を目指している。また、そのための環境整備をしている。その際の環境とは自然的､物理的な環境ばかりでなく人とのかかわりを含め人的･社会的環境も含めている。

２）一人ひとりの特性に合った保育・教育

子ども達一人ひとりが自分に合った体験ができるように行っている。そのために、子ども達の自発性も重視するが、スタッフによる子ども理解を大切にしている。自発的に活動する子どもの姿に多様な場面で向き合い、継続し、系統だった理解に努めている。

３）人と人とのかかわりの重視

同年齢、異年齢の友達とのかかわりと同時にスタッフとのかかわり、また友達のお父さんやお母さんとのかかわり、学生スタッフとのかかわりなど多彩にかかわりができる環境を構成している。また活動プログラムの中には地域行事や年中行事なども盛り込まれている。これらの活動によってもかかわる人も多彩となり、かかわりの内容も豊かとなる。

（２）特色ある活動

１）体験に基づく保育・教育

体験に基づく保育・教育についてはすでに指摘した。先にも示したが、実際に経験できる現実体験を中心にしている。自然の中では子ども達を取り巻く環境も多彩である。そこから子ども達は自分に合った活動を見つけ出し、様々な思考や工夫、その子らしい感情を経験していく。

２）学びについて「概念学習」の実施

学習についてその内容をいわゆる学力的な面ばかりでなく、生活に関する知識や技術を身につける、自分自身のやりたいことができるようになる、新たな行動の様式を形成する、判断できるようになる、など幅広くとらえている。心理学で言う行動形成も含めている。

一人ひとりに応じて遊びや生活を通して数を数えることや、文字の書き方、お絵かきなども身につける。また、その子の興味によって動物に関心を持つ子ども、植物に興味を示す子どももいる。

それらについて、そこに含まれる本質的な意味にいたる過程として概念を得ていくことを目指している。例えば、「水」が３つのあり方を持っていることについて「水」であるときは「液体」であり、お湯になって蒸気になると「期待」であり、冬になって凍ると「個体」という姿に変えることなどを実物を通して体験していく。

３）幼保―小の接続に向けて

現在、幼保―小の接続が求められている。活動の中では「幼保」という就学前と学校への入学という段階だけでなく、一人ひとりの年齢進行においてもそれぞれの段階が円滑に移行できることを行っている。

幼児期の成長にはとても速いものがある。祖俺は1年という期間だけでなく、何か月という月の進行によっても子ども達は大きく変化する。その段階で達成した状態を踏まえて次の段階が現れる。そのために、１段階、１ステップごとの達成した状態をまずは大事にしていく。それを踏まえて次の段階の成長発達を促していく。

この時に大切にしていることがある。それは大人も含めたスタッフが成長を実現した子どもに、その子の成長した姿、段階を踏まえて向き合うことである。

「幼保」から就学についての接続においても同様に考えている。

またこれらのことを実行するために1年間の活動を「適応期」、「展開期」、「進展期」に分けてとらえている。

（３）活動の教材化

毎回の活動で得られた実績は教材化を試みている。経験としても貴重であるが、別の機会で生かせること、またどのスタッフでも展開が可能となうように、さらに活動についてそこでの経験の検証ができること、などをねらいとして教材化を行っている。

（４）地域や年中行事などの教材化

地域自体を教材化している。これには年中行事なども含まれる。地域や年中行事などは内容としても多彩である。また、生活における意味が含まれている。さらに、生活に合わせて節目ふしめとなっている。それは生活のサイクルを学ぶことでもあり、人とのつながりの経験を得ることでもある。また子ども達が自分自身の成長を実感する場でもある。地域や行事の中で役割を経験する場ともなっている。

しかもこれらの地域や行事の中にはその子の興味や関心に合ったものが含まれている。

自分に合った活動を経験するという意味において重要である。

5）活動を冊子化する

これまでの活動資料を編纂して冊子化している。活動経験の蓄積と活動そのもの可視化をねらいとしている。表紙の写真（photo－１）を示した。

5．まとめ

これまで保育士や幼稚園教諭、社会福祉士、学生スタッフ、地域にお住まいの方らと共にこの保育園を続けてきた。

現代社会を見たときに自然を踏まえ、実際体験を重視した保育や教育、子育ては極めて重要と考える。それは子ども達自身にとっても大切であり、これからさらに創造性などが求められる時代にあっては社会にとっても重要である。

おわりに子ども達とのかかわりは子ども達自身を育てるとともに、若い人たちを同時に育てていること、年配者にとっては子ども達や若者が希望を感じさせてくれることを実感する。

現在、いわゆるコロナ禍といわれる状況のもとで、小・中学校の義務教育を含めた学校教育においてリモート授業・遠隔授業などが行われている。また現代社会の変化はきわめて急である。このような状況のもとで一人ひとりが自由で創造的な資質を備えていくことが一層求められている。

自然保育は実際体験に基づいた成長発達をねらいとするものであり、また幼保―小の接続も含め、生涯を見通した成長発達をめざすものである。

これらにより自然保育が果たす役割は大きいと考えられる。

photo－１　2015年度から2019年度までの冊子